

令和4年度自己点検・評価を踏まえた令和5年度中の取組事例について

高等教育開発センター

このたび令和5(2023)年度の教育プログラム・学生受入に関する自己点検作業を行うにあたって、前回令和4(2022)年度の自己点検・評価結果を踏まえた令和5(2023)年度中の取組事例を照会したので、その結果を示す。

〔留意事項〕

- ・「R4判定」欄の○は「改善完了」、△は「改善継続」、※は「改善着手」、―は「対象外」を指す。
- ・複数項目を含む区分では、1つでも△※があれば△※（△※ともあれば※）と判定している。
- ・有色セルは△※判定が複数の部局（学部・研究科）に及び、組織的な改善が期待される区分。
- ・R4判定で△※が無かった区分でも、取組事例があった場合は記載した。
- ・白丸数字は認証評価の対象となる設問項目を指す。

I：学士課程（12の教育プログラム）

・教育プログラム

区分	R5 取組事例	R4 判定			
		○	△	※	―
1	ディプロマ・ポリシーの明示	実施せず			
2	カリキュラム・ポリシーの明示	実施せず			
3	ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性	実施せず			
4	教育課程編成の体系性	5	5	2	
	⑤全学共通科目の位置付け ・学科教務委員会においてカリキュラム・ツリーを点検し、全学共通科目の位置づけを確認した。				
5	授与学位の水準	12	0	0	
6	他大学における単位認定	実施せず			
7	年間の授業期間	実施せず			
8	各科目の授業期間	実施せず			
9	適切な授業形態と学習指導法の採用及びシラバスの公表	12	0	0	
	③シラバス相互チェック ・シラバス相互チェックを行う準備段階として、全学で実施しているシラバス記載状況チェックを利用できるよう、これまで独自様式であったシラバスを全学共通の様式へ移行作業を行った。 ・学科教務委員会委員が呼びかけて、各コースのシラバス相互チェックを実施した。				
10	教育上主要と認める授業科目の担当教員	11	1	0	
11	夜間授業の実施	実施せず			
12	履修指導の組織的体制と実施	12	0	0	
13	学習相談の体制と実施	12	0	0	
14	社会的・職業的な自立に向けた能力養成の実施	12	0	0	
15	履修上特別な支援を要する学生への学習支援の体制と実施	12	0	0	

16	成績評価基準の組織的策定	12	0	0	
17	成績評価基準の公表	12	0	0	
18	成績評価や単位認定に関する組織的实施	12	0	0	
19	成績に対する異議申立て制度に関する組織的实施	12	0	0	
20	卒業要件の組織的策定	12	0	0	
21	卒業要件の公表	12	0	0	
22	卒業認定の組織的实施	12	0	0	
23	学習成果の把握（卒業率、資格取得、受賞等）	0	0	0	12
24	学習成果の把握（就職・進学率、主な就職／進学先等）	12	0	0	
25	学習成果の把握（学生からの意見聴取結果）	0	0	0	12
26	学習成果の把握（卒業生からの意見聴取結果）	0	0	0	12
27	学習成果の把握（就職先等の関係者からの意見聴取結果）	0	0	0	12

・学生受入

区分	R5 取組事例（部局：教育プログラム名）	R4 判定			
		○	△	※	－
1	アドミッション・ポリシーの明示	実施せず			
2	入学者選抜の実施	実施せず			
3	入学者選抜の検証・改善	実施せず			
4	入学者の定員管理	実施せず			

Ⅱ：修士・博士前期課程（6つの教育プログラム）

・教育プログラム

区分	R5 取組事例（部局：教育プログラム名）	R4 判定			
		○	△	※	－
1	ディプロマ・ポリシーの明示	実施せず			
2	カリキュラム・ポリシーの明示	実施せず			
3	ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性	実施せず			
4	教育課程編成の体系性	0	2	4	
	②カリキュラム・ツリーの作成 ・公認心理師取得者のための単位を授業配当表で明示し、オリエンテーションでも周知している。				
5	授与学位の水準	4	2	0	
	・シラバスに予習・復習の内容を記載し、それに要する時間を確保している。				
6	他大学における単位認定	実施せず			
7	大学院課程における研究指導《大学院課程のみ》	6	0	0	
8	TA活動を通じた教育・研究能力の育成《大学院課程のみ》	3	2	1	
9	年間の授業期間	実施せず			

10	各科目の授業期間	実施せず			
11	適切な授業形態と学習指導法の採用及びシラバスの公表	6	0	0	
12	教育上主要と認める授業科目の担当教員	6	0	0	
13	夜間授業の実施	実施せず			
14	履修指導の組織的体制と実施	6	0	0	
15	学習相談の体制と実施	6	0	0	
16	社会的・職業的な自立に向けた能力養成の実施	6	0	0	
17	履修上特別な支援を要する学生への学習支援の体制と実施	6	0	0	
18	成績評価基準の組織的策定	6	0	0	
19	成績評価基準の公表	6	0	0	
20	成績評価や単位認定に関する組織的实施	6	0	0	
21	成績に対する異議申立て制度に関する組織的实施	6	0	0	
22	修了要件の組織的策定	6	0	0	
23	学位論文審査基準の組織的策定 《大学院課程のみ》	6	0	0	
24	修了要件の公表	6	0	0	
25	修了認定の組織的実施 《大学院課程のみ》	6	0	0	
26	学習成果の把握（修了率、資格取得、受賞等）	0	0	0	6
27	学習成果の把握（就職・進学率、主な就職／進学先等）	6	0	0	
28	学習成果の把握（学生からの意見聴取結果）	0	0	0	6
	①修了時の意見聴取結果を踏まえた DP に即した学修成果 ・修了時における学生からのアンケート調査結果は、前年度と比較して同程度の回答率となり、DP 能力の修得状況等を聞いた項目の結果も、前年度と比較して「大変修得できた」及び「ある程度修得できた」との回答が同程度あったことから、学修成果が認められる。				
29	学習成果の把握（修了生からの意見聴取結果）	0	0	0	6
30	学習成果の把握（就職先等の関係者からの意見聴取結果）	0	0	0	6

・学生受入

区分	R5 取組事例（部局：教育プログラム名）	R4 判定			
		○	△	※	－
1	アドミッション・ポリシーの明示	実施せず			
2	入学者選抜の実施	実施せず			
3	入学者選抜の検証・改善	実施せず			
4	入学者の定員管理	5	1	0	

Ⅲ：博士・博士後期課程

・教育プログラム（10 の教育プログラム）

区分	R5 取組事例（部局：教育プログラム名）	R4 判定			
		○	△	※	－
1	ディプロマ・ポリシーの明示	実施せず			
2	カリキュラム・ポリシーの明示	実施せず			
3	ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性	実施せず			
4	教育課程編成の体系性	3	3	4	
5	授与学位の水準 ・シラバスに予習・復習の内容を記載しており、それに要する時間は確保されている。	8	2	0	
6	他大学における単位認定	実施せず			
7	大学院課程における研究指導《大学院課程のみ》	10	0	0	
8	TA活動を通じた教育・研究能力の育成《大学院課程のみ》	0	0	0	10
9	年間の授業期間	実施せず			
10	各科目の授業期間	実施せず			
11	適切な授業形態と学習指導法の採用及びシラバスの公表	9	0	1	
12	教育上主要と認める授業科目の担当教員	10	0	0	
13	夜間授業の実施	実施せず			
14	履修指導の組織的体制と実施	10	0	0	
15	学習相談の体制と実施	10	0	0	
16	社会的・職業的な自立に向けた能力養成の実施	10	0	0	
17	履修上特別な支援を要する学生への学習支援の体制と実施	10	0	0	
18	成績評価基準の組織的策定	10	0	0	
19	成績評価基準の公表	10	0	0	
20	成績評価や単位認定に関する組織的实施 ④GPA 制度の活用 ・日本学生支援機構大学院第一種奨学金返還免除者の推薦等に活用している。 ・授業料返還免除申請の選考において GPA を活用した。	4	3	1	2
21	成績に対する異議申立て制度に関する組織的実施	10	0	0	
22	修了要件の組織的策定	10	0	0	
23	学位論文審査基準の組織的策定 《大学院課程のみ》	10	0	0	
24	修了要件の公表	10	0	0	
25	修了認定の組織的実施 《大学院課程のみ》	10	0	0	
26	学習成果の把握（修了率、資格取得、受賞等） ① DP に則して標準修業年限内修了率及び同 1.5 年内修了率の状況 ・前者は 7 割未満、後者は 9 割以上。 ・令和 4 年度に初の修了者がでてからまだ 5 年経っていないが、現状では、博士後期課程においては、標準修業年限内の修了率及び「標準修業年限×1.5」年内修了率は 9 割以上である。	0	0	0	10
27	学習成果の把握（就職・進学率、主な就職／進学先等）	10	0	0	

28	学習成果の把握（学生からの意見聴取結果）	0	0	0	10
	<p>①修了時の意見聴取結果を踏まえた DP に即した学修成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了時における学生からのアンケート調査結果は、前年度と比較して回答率も高く、DP 能力の修得状況等を聞いた項目の結果も、前年度と比較して「大変修得できた」及び「ある程度修得できた」との回答が同程度であったことから、学修成果が認められる。 ・修了時における学生からのアンケート調査結果は、前年度と比較して回答率は同程度であり、DP 能力の修得状況等を聞いた項目の結果は、全て「どちらともいえない」という回答で前年度と同様の結果であったが、DP 能力が役立つかを聞いた項目は、「大変役に立つ」及び「ある程度役に立つ」が多くを占め、前年度と比較しても高くなったことから、学修成果が認められる。 				
29	学習成果の把握（修了生からの意見聴取結果）	0	0	0	10
	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度修了生に向けてアンケート調査を行った結果、回答率は3割程度であるが、社会に出てからの DP 能力の状況を聞いた項目について、概ね「大変役立つ」、「ある程度役立つ」といった回答が多かったことから、学修成果が認められる。 				
30	学習成果の把握（就職先等の関係者からの意見聴取結果）	0	0	0	10

・学生受入（7の教育プログラム）

区分	R5 取組事例（部局：教育プログラム名）	R4 判定			
		○	△	※	－
1	アドミッション・ポリシーの明示	1	0	0	6
2	入学者選抜の実施	1	0	0	6
3	入学者選抜の検証・改善	1	0	0	6
4	入学者の定員管理	4	3	0	
	<p>①実入学者数の適正（入学定員の1.3倍未満・0.7倍以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R5年度の入学定員の充足率は1.26倍となった。 				

*博士課程については、2022年度の改組を踏まえ、教育プログラムは旧組織（10プログラム）、学生受入は新組織（7プログラム）を単位として、自己点検・評価を実施した。